

2020年度 聖マリアンナ医科大学看護専門学校

学校関係者評価委員会概要と評価結果（報告書）

聖マリアンナ医科大学看護専門学校は本校が選任する委員による聖マリアンナ医科大学看護専門学校「第3回学校関係者評価会議」を開催した。今回の委員の選任にあたっては第1回・2回学校関係者評価の結果を受け、同窓生を加え幅広く委員に選任した。結果は聖マリアンナ医科大学看護専門学校（以下、学校）からの依頼により、第3回学校関係者会議委員が作成したものである。報告書には現状の課題と共に本校の将来を見据えた評価と具体的な課題が示されていた。その内容を報告する。

1. 第3回学校関係者評価会議の概要

1) 開催日程・場所

- (1) 日時 2021年2月24日（水）13時から16時
- (2) 場所 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 1階7号教室

2) 委員（9名）

委員長 高橋 恵 聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター長

委員 <高等学校関係者>

高等学校校長 (2名)

<看護団体関係者>

公益社団法人川崎市看護協会会長

<法人関係者>

法人看護専門学校担当理事

聖マリアンナ医科大学看護専門学校非常勤講師

聖マリアンナ医科大学病院看護部 副部長

川崎市立多摩病院看護部 副部長

同窓生

学校（9名）

校長	鈴木昌子
教務科長（委員）	今井みゆき
委員	専任教員（3名）
委員外	教務科長（2名）
事務長	
書記	

3) 事前配布資料

(1) 2020年度 自己点検自己評価 平均点レーダーチャート (3年間の推移)

(2) 2020年度 自己点検自己評価 大項目別結果

①2019年度の点検結果 ②3年間の推移 ③本校の状況 ④分析と結果

4) 当日配布資料

(1) 学習ガイダンス

(2) 学生便覧

5) 議事進行

時間	内容	担当
13:00 10分	校長あいさつ ・趣旨説明、会議の取りまとめ方、公表について ・参加者紹介	鈴木
13:10 40分	2020年度自己点検自己評価結果説明 ・本校の状況 ・分析と対策	今井
13:50 10	休憩	
14:00 30分	学校内見学 教室・実習室・教務室など	山下
14:30 30分	意見交換 ・説明についての質疑応答	司会：田中 書記：大石
15:00 40分	・本日の評価実施から公表までの進め方 ・意見とりまとめ、公表内容とりまとめ	高橋委員長 書記：臼井
15:40	まとめ	鈴木

2. 評価

1) 学校関係者評価会議の運営について

本評価会議は、学校により企画され、看護教育活動やその他の学校運営について、自ら設定した目標の達成に向けて取り組んできた活動経過と自己点検自己評価結果について報告が行われた。報告内容は、まずは評価項目の9つの大項目の平均点の3ヵ年推移について、次いで各大項目の小項目ごとの評価結果と3ヵ年推移、その結果からの分析・今後の課題と対策について詳細に説明があった。その後、質疑応答、意見交換を行い、次いで学校案内により教育環境を確認した。最後に評価会議委員9名により、評価結果、今後の課題等について討議した。

2) 配布資料について

会議開催に先立ち、事前に評価結果資料が配布され、当日には学習ガイダンス、学生便覧が配布された。それらを基に学校の評価結果の報告を受けた。

3) 自己点検自己評価について

学校では、2007年学校教育法改正による学校関係評価の実施と公表に準拠し、2009年度から自己点検自己評価を行っている。評価においては、「看護専門学校における学校評価要綱」に基づき、実施している。

自己評価は、大項目9項目、小項目60項目によって成り、学校教員により評価されている。2018年度から2020年度の3ヵ年の推移では、大項目、小項目共に概ね高い評価で推移し、2020年度は前年度に比較して全体的に評価が高くなっている。その中でも、評価の特記すべき項目について記述する。

(1) 「Ⅱ. 教育課程・経営評価」項目について

「Ⅱ. 教育課程・経営評価」では評価点も高く、小項目も3ヵ年推移でも各項目も年々高くなり、全ての項目がA評価であった。教育理念・目標達成のための授業構築、学生への支援体制を確実に実施した成果であると考えられる。

しかし、限られた授業時間の中で、科目によっては教授する内容量が多い科目がある。そのような科目では、授業内の学習時間だけでは科目試験が合格ラインに到達できない学生もいた。しかし、講師と教員とがコミュニケーションを密に取り、学習支援体制の強化に取り組んだ結果、学生の学習への取り組みや試験結果にも変化がみられるようになった。このことは、講師と教員との連携を密にとってタイムリーに適切な対応が行われたことによる成果であると思われる。また、臨床実習においても同様に、臨床実習担当者と教員とが連携を取ることで、学生への実習成果にもつながっていると言える。

学生によるカリキュラムアンケートの結果からは、1年次・2年次では「各科目の進度は積み上げがしやすかったか」の問いについて、「とても良い・良い」と答えている学生が60%代に留まっている。しかし、3年次になると90%が「とても良い・良い」と答えている。このことは、先述した評価結果の根拠となり、カリキュラム構成が適切であったと言える。2022年度の第5次カリキュラム改正に向けても、学校としての将来ビジョンを描き、さらなる魅力ある学校づくりに努めていきたい。

(2) 「Ⅲ. 教授・学習・評価過程」項目について

「Ⅲ. 教授・学習・評価過程」の小項目「14. 教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている」が、評価点では年々高くなってきているものの、他の項目の評価点に比較して低く、B評価になっている。時間確保のために業務効率を図るための様々な工夫を行っていきながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い学習形態の変更を余儀なくされ、確実な時間確保に至らなかったと思われる。また、業務量に教員差があり、評価点においても教員差があった。今年度の教員の構成が、ベテランと経験の浅い教員との二極化していたようである。これら課題に対応するために、教員間でのパートナーシップ体制の構築が計画されている。具体的な対策が記述されているため、目標管理を行い、対策を確実に実行して改善されることを期待したい。

(3) 「V. 入学」項目について

「V. 入学」については、他の項目に比較しても評価点は高い。入試、入学者選抜においては適切に行われている。しかし、一般入試受験者の人数が近年伸びていない。今年度はコロナ感染症により募集活動が十分に行えなかったことが影響していると思われるが、少子化による受験者数が低迷することを考え、学校の特徴・強みをアピールして受験志願者の増加を期待したい。

(4) 「Ⅶ. 地域社会国際交流」項目について

「Ⅶ. 地域社会国際交流」では、他の項目より評価点が低かった。特に小項目の「50. 地域ニーズを把握し、社会への貢献を組織的に行っている」が低い。このことは、2020年度の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、例年参加していた地域貢献に係る活動への参画が出来なかったことが影響しているものと思われる。今後は、学校として地域ニーズを把握し、教職員と学生と共に地域の期待に応えられる貢献活動の推進を期待する。

(5) 「Ⅷ. 研究」項目について

「Ⅷ. 研究」についても、他の大項目に比較して評価点が低いが、年々高くなっている。小項目では、「52. 教員の研究活動を保証している」が、前年度まではB評価であったが、今年度はAに上がった。研究できる体制を段階的に整えてきており、実績として研究や実践報告が学校紀要にまとめられている。しかし、「Ⅲ. 授業・学習・評価過程」の小項目「14. 教員が授業準備のために時間を取れる体制を整えている」がB評価であったため、授業準備のための時間確保と、研究活動のための時間確保のバランスを取りつつ、限られた時間の中で活動時間を生み出すための工夫が必要である。

4) その他

(1) 教職員の働き方改革の推進について

評価結果から、大方A評価であり、適切な学校運営が行われていると評価できる。しかしながら、先述したように「Ⅲ. 教授・学習・評価過程」の14. 教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている」がB評価であり、働き方改革が進んでいないように思われる。

教員の働き方が変わることは、学校経営と学生教育の質に大いに影響する。学校における教職員の

業務量に応じた適正な人員配置については、明確な根拠になるものがない。今後も社会の変化、医療技術の進歩・高度化等により、学校教育においても変化に対応していかなければならない。もちろん、それにより新たな業務は増える。限られた人的資源を最大限に活用して成果を生み出すためには、現状の業務を整理し、削除できるものは削除すること、ICT活用を推進すること、教職員間での役割分担、目標管理など、教職員による創造性の発揮による働き方に変化がもたらされることを期待する。

(2) 評価の仕方の工夫について

自己点検自己評価では、各評価項目において教員のみ自己評価となっている。参考資料としては、各学生によるカリキュラムアンケート結果や最終学年による卒業時の到達度結果が出されているが、学生による授業評価などについて実施しているものがあれば、自己点検自己評価の評価指標として示されると、より授業の質の評価結果の根拠となると思われる。

(3) 学生による卒業時の到達度について

学生による卒業時の到達度評価は、学生による自己評価によるものであった。若干評価点が高いように思われる。担任などによる他者評価や卒業後の評価なども追加されると、より信憑性が高い評価になると思われる。

また、卒業後の進路や資格取得状況など、学生の卒業後の活躍している状況を把握していくことも、学校の評価につながると思われる。

3. まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校運営に大きく影響を与えた。しかし、学生の学習進捗、学習習熟度に大きな影響もなく、安全に教育活動・学校運営を行うことができていた。学校は、今ある資源を最大限に活かし、学生に最良の学習環境を提供することを目指し、オンライン授業を早期に開始することができた。それは、感染拡大前よりICT教育を推進してきたこと、教職員が一丸となって新たな取り組みに尽力し、創造豊かに変化に対応してきた結果であると高く評価したい。

学校は、2009年度より自己点検自己評価を自主的に行い、項目ごとに丁寧に分析し、今後の課題と対策も具体的に立案し、改善に努め、学校の質保証・向上に努めてきた。本評価会議は、2018年度より実施し、今年度で3回目の開催となる。評価結果に対して真摯に受け止め、学校の発展のために努めている姿勢が、報告内容から伺えた。この3年間の本評価会議の結果を踏まえ、是非近年中には公的な第三者機関による評価を受審することを切に願う。そのことが、学校のさらなる発展につながると期待している。